

機械になる處であつた。分業と協力によつて、工場組織は完全に機械化された。そして、犯罪と死に至る、性的堕落は、世界が嘗て見なかつた近世産業都市に現れることになつた。一八四八年期の英國労働状態を云ふフレデリックエンゲルスの書物で、チャルズキングスレーの「アルトンロック」を讀めば、それが、如何に恐ろしいものであつたかわかる。然し教會の目醒むることは誠に遅かつた。佛國は革命を見た。革命を一度まで見た。それでも教會は目醒め無かつた。たゞ英國だけはジョンクエスレーの宗教運動によつて、革命より教はれたが、その産業革命より救ひ得られなかつた。その爲めにはもう少し徹底的福音の宣傳が必要であつたのだ。然し、メソヂスムはカルヴネニズムより勝れて居た。米國福音ユニオン、セミナリーのトマス・キール博士は之に就てカルヴネニズムが資本主義と資本家の擁護に就つて、労働階級の救済に無能であつたことを、口を極めて罵つて居る。然らば何故教會と教條は無能であつたか。

カルヴネニズムは、餘りに聖門分業の二元論に傾むき過ぎて、クエスレーの辯論

現代を全説を主張し無かつたから、精神主義を、物質生活に應用してその救済に務めず、一信仰と態度へあれば貧困も亦可なりと説いて、資本家と労働者の社會階級は運命的のものであつて、之を破壊するは、神の法則を破るものであると云ふ様な風に移へたのである。之は今日米國南部諸州の教會が、黒人奴隸人種に対する考へと同一年のものであつた。即ち、教會は餘りに社會問題に關して無能であつたのだ。然し米國では人道主義者の群が起つて、教會の追善、實際教育は人道主義者を追善した。之は矛盾な處だが實際である。奴隸解放に成功した。

教會の總性は、さうかするに、社會制度を機械化し、又之を固守せんとする爲めにパリサイ化する。彼等は、社會制度の進化した跡を追ふ爲めに、倫理的向上を期する能力に於て、之が、イエスキリヤイの相違であつた。處が社會主義は、今日の個人主義的教會信者を、私は敢て教會信者と云ふ、それは、教會的社會制度を信するものであるから、今日のパリサイイとして罵る。それには、實に理由があるのである。見よ、教會信者の中に何人が、世界的に労働階級の救済に